

飛ぶ鳥を落とす勢いだった電気自動車メーカーのテスラが、廉価版モデル3を世に出してから様子がおかしくなってきました。高級車を少量生産することはさほど困難ではありませんが、廉価版の大量生産となると話は異なります。大きな壁にぶち当たっているように見受けられます。

実態はどうなっているのだろうかといういろいろな情報を収集して探ってみました。どうやら問題のポイントは電池モジュールの組み合わせの自動化に問題があるようです。自動化により低コストで生産という予定だったものがうまく進んでおらず、人海戦術で組み立てているということのようです。とりあえず当初目標の週5000台をこの7月に達成できたと言うことですが、安定生産にはまだ日数を要する模様です。

モデル3で採用されたパナソニックの電池セル「2170」



<https://www.youtube.com/watch?v=t8PQpKN8DvQ>



テスラのCEOであるイーロン・マスクは、テスラだけでなくエネルギーにいろいろな事業を手がけています。この2月には全長70メートルという世界最大の大型ロケット打ち上げを成功させたスペースXは株式未公開ですが評価額は2兆円と言われています。

イーロン・マスクの事業展開方法は、他のシリコンバレーの企業と同じく最初に高い目標を設定して株価をつり上げ資金を収集し、そして従業員や協力会社を目標に向けて追い詰めるというやり方です。それでいままで成功してきました。しかしモデル3の場合もうまくいくかどうかは不明です。モデル3の財務状況を推定すると、

- ・モデル3の年間の売上金額は、350万円×20万台＝7000億円
- ・人件費 3.7万人×500万円≒2000億円
- ・材料費の検討がつきませんがおそらく5000億円は下回らないと思われます。

とすると赤字の状態がしばらく続くこととなります。問題は安定生産まで資金が続くかどうかです。

イーロン・マスクの事業が、他の自動車会社や公害問題、宇宙への進出等に関して多大な刺激を与えてきたのは事実です。成功するか不成功に終わるか分かりませんが、今後も資金需要のために話題を提供するものと思われる。ウォッチしていきたいと思えます。